

60th

延岡市美術展覧会 入賞・入選目録



日本画・水墨画・ちぎり絵等部門 特選
「だァ〜い好き! (瑞穂の国)」



写真部門 特選
「キリンさん高い高い」



洋画部門 特選
「Vincennes VS Kagoshima」

会期:平成22年7月3日(土)~7月16日(金) 【休館日:7月6日(火) 7月13日(火)】

会場:延岡総合文化センター展示室1・2 【開館時間:AM 9時 ~ PM 5時】

主催:第60回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

◇ 後 援 (順不同) ◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(社)延岡市医師会
延岡農業協同組合・(社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
九州電力(株)延岡営業所・ホテルメリージュ延岡・センコー(株)延岡支店
清本鐵工(株)・宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社

洋画

特選	延岡市長賞	Christopher Troutman	Vincennes VS Kagoshima
特別賞	第60回記念特別賞	土肥 勇志	東京タワー
準特選	延岡市教育委員長賞	高橋 絵美里	ひととき
準特選	延岡市文化連盟会長賞	野 村 豊	ある月の夜
奨励賞	延岡市議会議長賞	荒 金 辰 夫	待つ
奨励賞	延岡市教育長賞	黒 木 日 良 志	樹魂('10-5)
奨励賞	延岡商工会議所会頭賞	三 瀬 み の り	落花生
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	八 木 千 穂 子	庭園VI2010. 6
努力賞		工 藤 俊 英	観音菩薩立像(救世観音)
無鑑査		後 藤 光 雄	みんな何処へ行くんだろう
無鑑査		八 木 隆 幸	《まるの詩・10～碑1》





入 選

- | | | | |
|-----------|------------------|-----------|--------------|
| 青 木 壽 子 | 巡る I | 首 藤 孝 子 | 変容 II (踊) |
| 赤 澤 隆 | 2010-夏 | 水 津 保 | 摩崖仏と般若心経 (2) |
| 池 田 見 一 | お田植え祭り | 高 田 忠 | 棕追憶五百年 |
| 磯 貝 増 夫 | 大日如来と群像 | 高 森 拓 夫 | 母の肖像 |
| 上 杉 良 隆 | 地球の年輪 | 武 井 實 信 | 磯の仲間たち。 |
| 海 野 よ し の | 山里 | 武 田 昭 三 | 廃船 |
| 江 藤 繁 | 深山、椿の頃 | 田 中 節 子 | 祈 II |
| 大 山 久 雄 | アッパレHTV&HAYABUSA | 中 嶋 佳 音 | 菁菁 |
| 甲 斐 美 保 | 浦城沖の朝 | 西 村 美 代 子 | 枇杷 |
| 木 下 秀 子 | 倒壊7日前 | 野 村 幸 枝 | しゃぼん玉 |
| 木 村 マ シ 子 | 女一街の片隅で | 矢 野 隆 男 | 港の哀歌 |
| 久 保 ケ イ 子 | 涼(猪八重溪谷) | 山 内 登 紀 子 | 鼓動が聴こえる |
| 倉 尾 武 志 | 土偶になった兵士たち | 吉 本 悟 | 初夏の頃 |
| 古 小 路 禮 子 | 山上の棚田(1) | 陸 丸 敦 子 | 根子岳遠望 |
| 佐 藤 香 代 子 | 風(1) | 渡 邊 大 夢 | 澄ます |

日本画・水墨画・ちぎり絵等

- 特選 延岡市長賞 工藤 晏生 だァ〜い好き! (瑞穂の国)
- 特別賞 第60回記念特別賞 佐藤 幸子 ファンタジー
- 準特選 宮崎県教育長賞 吉玉 奉枝 夢想
- 奨励賞 旭化成(株)延岡支社長賞 工藤 俊英 みちしおの時間・潮風と共に
- 努力賞 甲斐 海洋子 竹の皮脱ぐ
- 無鑑査 小野 きよ子 赤く燃える

入 選

- | | | | |
|--------|------------|--------|-----------|
| 大槻 スエ子 | 蔓薔薇 | 西川 志づ | 川崎さん家のレモン |
| 甲斐 美代子 | 高千穂橋 | 濱口 ヨシエ | 西都原の春 |
| 河野 峰子 | 老木 | 日高 恵子 | 椿 |
| 児玉 昭子 | 旅先 | 福留 公子 | ムラサキハナナ |
| 佐多 光夫 | 古に思いを馳せる | 松田 ヤエ子 | ななかまど |
| 清水 悦子 | 北浦の風景 | 山内 登紀子 | 初夏 |
| 豊田 ハルノ | 草原に咲くエゾツツジ | 湯地 イチイ | 遊ぼうよ |



彫刻・工芸



特選	延岡市長賞	武田 弘子	金星へのメッセージ (金星探査機あかつきとイカロスとスーパーローテーション)
特別賞	第60回記念特別賞	田上 多津美	ハイビスカスのミルフィーユ
準特選	延岡市文化連盟会長賞	花田 美愛	あの頃に忘れ物ひとつ。
奨励賞	延岡市議会議長賞	飯干 ヒロミ	行滕山
努力賞		石内 見空	白化粧掻き落し ガウディー様
無鑑査		中村 有子	幾何学紋化粧土大皿「煌めく」

入 選

越智 きくみ	松風	田口 京子	野ばら
工藤 ほなみ	紫陽花雨に映えて(タペストリー)	戸高 房子	春
黒木 千里	黒化粧、掻き落し唐草模様	奈 須 廣	清流と共に(アルミ缶アート)
白瀬 叔子	ぼたん	新名 喜代美	森のささやき
関 武 司	五重の塔	煮 玉 守	森の賢者
高見 昭夫	昭影盛籠	廣瀬 敦子	華宴

グラフィックデザイン

特選	延岡市長賞	河野英樹	昔はお外で遊べたの？
特別賞	第60回記念特別賞	瓜生奈央	今も夢を、追いかけてますか？
準特選	延岡市教育委員長賞	飯干史朗	頑張ろう 宮崎！
準特選	延岡市文化連盟会長賞	飯嶋海	口蹄疫
奨励賞	延岡市教育長賞	伊東珠貴	命の音
奨励賞	延岡市医師会長賞	安藤萌	Festival
奨励賞	センコー(株)延岡支店長賞	下村美波	言葉で人は、
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	吉原小百合	あなたは注意できますか？
努力賞		甲斐千春	空も泳ぐ金魚

入選

赤星佳奈子	ゲーム依存症	榎間一未	1938
秋月亮太	EnterPRISE KYUSYU!!	楠田省吾	Struggle
荒木朋久	KOUTEIEKI	古賀美有紀	いただきます。
池田絢美	ばあちゃんの手紙	斉藤友美	ななみ
糸永佳乃	一番最初にもらう愛	佐賀聡美	皆違って皆いい。
上原瑞紀	たすけあい	坂之下龍之介	Coexistence
上原るり	命	目千代	育て、あなたと私。
江口しおり	ずっと一緒に笑ってようね	佐藤亮祐	PROJECT 05 EHXIBITION
大石来未	そろそろ自立しませんか？	関屋晶子	うしろのしょうめんだあれ
大串政史	保健所の犬達	友寄綾乃	破壊
大塚奈々	頑張る母ちゃんに声援を!	中村麻里子	流しっぱなしには注意しよう
上鶴成美	とくさんぶつ	西田華奈子	華葬
木田柁子	語部	馬場琴子	つながり
金城宏周	REVIVE?	堀本真紀	give
		前田直美	余裕を持っていますか？
		松村菜々子	HISTORY
		森山楓	ジパング
		湯野翔太	大切な命
		吉本雄紀	help



書 道



特選	延岡市長賞	村田	か	お	り	香風	水邨
特別賞	第60回記念特別賞	山浦	秀	子		柏秀	秋雨嘆
準特選	延岡市教育委員長賞	原田	さ	ゆ	り	桑峰	聞笛 外一首
準特選	延岡市文化連盟会長賞	植野	幸	雄		竹山	杜審言詩
奨励賞	延岡市教育長賞	谷脇	か	お	る	蕙華	花の香を
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	荒巻	孝	行	子	大心	刻舟求劍
奨励賞	延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	甲斐	洋	子		春宵	山陽詩
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	緒方	和	子		華苑	錢起詩 二首
努力賞		川越	幸	枝		祥香	石召詩
招待作家		西田		豊		玄豊	香鑪峯
招待作家		岩下		基		春來	陸放翁句
招待作家		大塚	洋	子		葉風	夢楊二禮曹
無鑑査		西村	香	枝	子	和香	感春雜詠
無鑑査		尾崎		真	人	泥舟	禪語
無鑑査		植野		春	雄	聖鳳	李頎詩
無鑑査		西村		寿	洋	玄洋	水邨

入 選

青柳 有伸	有玄	舟 敢山に次し 風に阻まる こと累日 近岸荒岡の僧舎に登る	清 絹 代	青雲秋月
飯 干 朗	千峰	真州城南作	田 口 智 子	春汀 さくらちる
上 杉 秀 子	秀香	玩秀軒	田 中 幸 代	幸苑 元葉書山先生歸里
植 野 寿 美	寿泉	王安石詩	谷 口 隆 幸	鶴城 殷堯藩詩
植 野 洋 一	桂石	高青邱詩	富 高 梅 生	玉振 壽山福海
上 原 幸 子	香玉	山中懷友	西 井 信 隆	秀雲 千家九磨の詩
牛 迫 孝 子	春香	高青邱詩	平 田 智 子	麗水 唐詩
牛 島 二 美 子	文甫	菜の花畠に	古 田 勝 太	勝柏 宿瑩公禪房聞梵
岡 崎 亜 希 子	一華	中秋登東阿城樓	前 田 佳 代 子	佳泉 返照
岡 田 雅 子	桃紅	虞草	松 崎 恭 子	恭華 靈隱寺月夜
小 田 千 穂	紅扇	ちぎりきな	宮 本 元 子	香洋 和文潛舟中所題
甲 斐 多 美 子	祥景	白楊河看月	山 崎 洋 一	玄石 貧而樂道
甲 斐 睦 子	柏葉	静坐の吟 他二首	山 本 加 代	濤香 秋興
工 藤 弥 生 子	瀟泉	元陸蕙叢	吉 岡 陽 子	陽亭 自洪涉黄河途中作
熊 谷 菜 穂 子	芳苑	杭淮詩	吉 田 純 一	純峰 鏡川
児 島 榮	榮心	何景明詩	吉 玉 喜 世 子	喜風 石版
柴 田 照 子	空心	白鳥は哀しからずや 他一首		

写真

特選	延岡市長賞	赤坂彦四郎	麒麟さん高い高い
特別賞	第60回記念特別賞	甲斐直志	怒濤
準特選	宮崎県知事賞	David Stern	普遍的な形
準特選	延岡市教育委員長賞	黒木勲	校内どろんこ祭り
準特選	延岡市教育委員長賞	柳田実男	無情の雨
準特選	延岡市文化連盟会長賞	菊池貢	ブナ双幹
奨励賞	延岡市議会議長賞	岡内完治	8200mから仰ぎ見るエベレスト
奨励賞	延岡市教育長賞	松田和男	後継者
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	植野浩人	明日がほしい
奨励賞	延岡市医師会長賞	小松清春	仲良し散歩
奨励賞	九州電力(株)延岡営業所長賞	山中正宣	ゲット
奨励賞	延岡農業協同組合代表理事組合長賞	新田誠生	夕焼けライダー(まだ遊べるよ)
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	横山喜年	老木の春
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	甲斐靖一	蛍の頃
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	西原知里	夕暮あかり
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	中森信子	花の舞
努力賞		押方徹	夢遣りし場所
無鑑査		工藤幸夫	草原のひとつき
無鑑査		高橋ミサ子	花の宴
無鑑査		後藤司郎	白い朝





入 選

- | | | | |
|-----------|---------------|-----------|------------|
| 池 田 晃 二 | 甘えん坊 | 周 防 政 幸 | 追憶 |
| 伊 藤 清 春 | 雨あがり | 鈴 木 久 人 | 希望 |
| 岩 倉 一 紘 | 木立のシャワー | 雀ヶ野 秀 憲 | 旅立の頃 |
| 上 本 浩 二 | 「さわってもいいよ」 | 高 木 幹 生 | 花模様 |
| 衛 藤 惇 夫 | 画伯の春 | 高 山 トヨ子 | 青春の一ページ |
| 太 田 重 久 | 夕日の浜 | 竹 内 寛 | 山間の里 |
| 緒 方 正 光 | 水の彩音 | 田 崎 淳 | わんぱく兄弟 |
| 小 野 尚 紀 | 流れた時間 | 田 辺 文 昭 | 錦秋のスポットライト |
| 甲 斐 勝 子 | ひとやすみ | 谷 久 美 代 | 出会い |
| 甲 斐 民 人 | なかよし電車 | 田 上 誠 | 午後の公園 |
| 甲 斐 久 順 | 配達だよ | 千 葉 雄 一 | 幻想 |
| 甲 斐 均 | 楽しきゆうべ | 趙 亜 鳴 | 朝の漁歌 |
| 甲 斐 正 之 | こわいよ一 | 中 瀬 林 | フェイス |
| 甲 斐 勇 一 郎 | In Ruins | 永 田 能 夫 | 初夏の休日 |
| 笠 村 陽 一 | かけっこ | 長 友 道 生 | 棚田暮色 |
| 金 子 龍 太 郎 | 竹宵ファンタジー | 中 野 孝 一 | 滝雲 |
| 川 口 幸 治 郎 | 成人の日 | 永 山 淳 | 龍昇天 |
| 川 越 洋 治 | 夕陽差す頃 | 松 尾 香 代 子 | シャボン玉 |
| 河 野 英 樹 | 最後の時間 | 宮 川 哲 朗 | 街角 |
| 川 端 章 | 気の合う仲間 | 宮 良 信 道 | ばあちゃん |
| 黒 木 義 一 | 守り神 | 守 田 敏 和 | どろんこ祭りの若者 |
| 黒 木 憲 二 | テリトリー | 守 田 陽 子 | 夕映えの柵田 |
| 黒 木 男 | ツララがいっぱい | 森 守 | 散歩 |
| 幸 崎 善 五 郎 | 光芒 | 矢 野 仁 祺 | 蛍 |
| 兒 玉 由 美 子 | 春が来た | 矢 野 征 生 | 惜しむ秋 |
| 木 場 富 次 | 幻想の調べ | 山 口 通 | 友情 |
| 小 林 敏 秋 | キング・オブ・ザ・キングズ | 山 口 敏 夫 | 祭りの日 |
| 佐 藤 卓 志 | 天までとどけ | 吉 田 春 勝 | エーイッ！！ |
| 柴 田 日 義 | 黄鐘の頃 | | |

審 査 講 評

(審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。)

【洋画部門】

独立美術協会会員 池末 満

今年、延岡市美術展は60回展を迎え、この記念すべき節目の年に、審査員として迎えていただいた事をうれしく思いますと共に、その重責を強く感じました。輝かしいこの歴史は、延岡市民と市美術展に携わる人々の熱意が継承されてきたもので、心から敬意を表したいと思います。特に今回は「口蹄疫」の問題に直面され、地域の方々には大きなショックの中でも、昨年とほぼ同数の応募作品があった事は素晴らしいことです。しかし、本年も例年同様、展示点数に限りがあり、半数以上を選外とせざるを得ない厳しい審査となりました。

83点の出品作品の中から39点を厳選し9点の入賞作品を決定致しました。

特選の Christopher Troutman さんの「Vincennes vs Kagoshima」は2つに割られた2ヶ所の場所が、1つの風景に繋がれた不思議な空間になっており、画中の携帯電話は、情報の同時入手を可能にし、世界中が非常に近くなったことを示している様に思われます。コンテによるモノクロームの作品ですが、確かなデッサンに裏打ちされた素晴らしい作品です。

第60回記念特別賞 土肥勇志さんの「東京タワー」は、放送電波塔としての役割を終える東京タワーを人間型に変えるという、滑稽な発想で驚かされ、都会のビル群の極細密な描写に目を見張りました。漫画のような表現に強烈な個性と現在を感じます。

準特選 高橋絵美里さんの「ひととき」は透明水彩とパステルをつかい、水彩紙によるコラージュ、スクラッチ技法など混合技法がうまく活かされた秀作です。

準特選 野村豊さんの「ある月の夜」は、暗い画面にもかかわらず、月あかりのもと今から何かが始まる様なワクワク感のある童話の世界を感じさせてくれる秀作です。癒しの力を感じます。

奨励賞 八木千穂子さんの水彩絵具のはじき技法とステンシルの組み合わせで描かれた「庭園VI 2010. 6」はハーフトーンの美しさに詩情が溢れています。

荒金辰夫さんの「待つ」は調子の美しさを、黒木日良志さんの「樹魂（'10-5）」は大胆な構図にエネルギーな筆致で強い生命感を感じました。

三瀬みのりさんの「落花生」は俯瞰の位置で描かれた植物が静謐な空間を美しく造っています。若い人ですので、今後描写の習熟度をあげ、置かれている物の存在感が伝わればと思います。

努力賞の工藤俊英さんの「観音菩薩立像（救世観音）」は黒色の下地に線描を駆使され描かれた労作です。作者の深淵な心の世界が伝わってきます。

今こそ、人間の心の底にある純な思情、湧き上がってくる熱きもの、それは生きること、勇気を持つこと、そしてこの強さの中から生まれてくる心のやさしさ、心のゆとり、どんな時代になっても、変わることなく、人が決して忘れてはいけないことだと思えます。これがなければ、作品表現は弱いものになるでしょう。

今後、もっと絵を描く仲間達の輪が広がり、創作活動が人生を豊かにすることを期待して私の講評といたします。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等部門】

画家・元熊本県美術家協会会長 姫野 豊

審査させて頂くにあたり、三領域に対する私の基本的な姿勢を簡単に述べます。

絵画の表現では、対象について新鮮な見方や感じ方をし、その感動を率直に表すように心がけたいものです。そして、絵の具などの素材との取りくみを試行錯誤しながらすすめていき、造形的な要素を美的に組み立てることによって、個性的ないい作品が生まれると思います。

(日本画) 自然などに対する感じる度合いの微妙さは、日本人のもつ独特の感性です。しかしこれを奇麗ごととして表すのではなく、永い伝統に磨かれた絵の具の技法等を大事にしながら、その可能性を求めていくと個性あふれる日本画になりましょう。

(水墨画) 従来のお水墨画がもっている墨象と筆意も大事なことです。折角のモノクロームの微妙さを創り出していくための重ね塗りも厭わぬ冒険が必要です。

(ちぎり絵等) 切る・ちぎる・貼るといった繊細な技術に偏るのではなく染色された和紙等の織りなす色調と質感・量感の表現を巧みに生かした作品は独特の輝きと魅力があります。

特選「だァ〜いすき！(瑞穂の国)」は画面いっぱい描かれた稲束に引きつけられます。この主役に対する白色の背景が効果的に引きたてています。稲の綿密な描写や束ねたために出来た陰影も魅力があり、密度の濃い作品となりました。

60回記念賞「ファンタジー」紫陽花のもつ変化のイメージがよく表されています。花と葉を中央に位置し、その役割りを担わせるとともに、空間感を出す効果ともなりました。

準特選「夢想」ひまわりの花を具象形で表し、周りにあるであろう枝や葉を抜きはなす手法は、並みの絵どころではないと思いました。

奨励賞「みちしおの時間・潮風と共に」みちしおの渦、そして白涛、やがては静寂を連想させる図柄が木目細やかな技法の中に表され美しい。

努力賞「竹の皮脱ぐ」竹の生成に伴う変化を題材にし、自然をみつめ人生を省みる様子が忍ばれます。

この他、入賞を逸した作品、「遊ぼうよ」、「蔓薔薇」「古に思いを聘せる」、「旅先」などの秀作を見つめさせてもらいました。

【彫刻・工芸部門】

陶芸家・<社>現代工芸美術家協会本会員 泰田 久史

60回という戦後まもなくからの長い延岡市美展の歩みに心から敬意を表します。

作品が多岐にわたるといふ本美術展の審査の難しさを痛感しました。加えて私自身が作り手として応募者の気持ちができるだけに、審査は入念に行いました。

特選の武田弘子さんの作品は伝統的な素材の上に独創的なデザインが光る出来でした。

特別賞の田上多津美さんの作品は作者の卓越した技術と色彩感覚がマッチした秀作です。

準特選の花田美愛さんは17才の高校生という事でした。ほぼブルーで構成された作品で、今後の飛躍が期待されます。奨励賞の飯干ヒロミさんの作品は地元の自然をモチーフに荒々しい肌で表現を試みた意欲作です。努力賞の石内見空さんの作品は類例の少ない個性あふれる作品で今後の展開が楽しみです。

今回は残念ながら入選に至らない作品が多くありました。展示に値する作品にもかかわらず、点数の関係で大変心苦しい思いを何度もしました。気落ちせずに今後も出品を続けていただきたいと思います。

市美展が還暦を迎えられる記念にあたり、改めてご紹介したい文がありますのでそれを記し、お祝いの詞にかえさせていただきます。

「新しい日本は、文化国家を建設し、世界平和と文化の向上に寄興すべきことを宣言した。(中略) 地方文化の樹立と向上は、現段階における最も重大な事業の一つである。而して新しい日本の文化は、平和的にして且つ、生産的文化でなければならない。われ、延岡市の文化事業にたづさわる同志は、(中略)

相寄って文化連盟を結成するに當り、平和と生産の逞しき郷土文化を樹立するため、互に相協力して進むことを宣言する。」(1949年延岡市文化連盟結成大会文化宣言より抜粋)

本展の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

【グラフィックデザイン部門】

デザイナー 龍 由美子

10年程前には考えられなかったほど、コンピューターが私たちの生活に不可欠な存在として大きな影響を与え、どっぷり居座っています。デザイナーは、コンピューターの日々新しく生まれる技術には翻弄され続けています。しかし、肝心なことは10年前とはほとんど変わっていません。目的と目標がきちんと整理されているかです。つまり、シンプルで分かりやすい表現でメッセージを伝えようとしているか。それが、人々をうならせ、笑わせ、わくわくさせ、感動させられるか。それが明確であれば表現手法はコンピューターであろうが手描きであろうが、また、グラフィックデザインであろうがイラストレーションであろうが全く拘わりはありません。

本年度の出品数は前年度の何と約3倍の73点ということで、他の地方展のデザイン部門を圧倒しています。特徴として、特に口蹄疫の前例なき被害が広がる宮崎県へのエールを込めた作品等、メッセージ性の高い作品が数多く寄せられたことです。皆さんの宮崎県への熱い思いが制作意欲と重なり、県内外から多数の出品をいただいた結果だと思われまふ。今回、初めて審査に臨ませていただいて、他の地方展と比較して出品数も然る事ながら、レベルの高さに感動しました。その作品の中で順位をつけることの苦悩をしっかりと味わいました。

特選の河野英樹さんの「昔はお外で遊べたの?」は緻密なタッチの日常の風景描写の手前には近未来の家族のシルエットと澱んだ背景。ゴシック体をわざと荒らした書体と配置に工夫が見られ、現代を風刺した秀作です。特別賞の瓜生奈央さんの「今も夢を、追いかけてますか?」は、回想風のシーンを抜群のイラスト力で表現し、親しみのある書体で入れたコピーも効果的な好感の持てる作品です。準特選の飯干史朗さんの「頑張ろう 宮崎!」は宮崎県への応援メッセージをこめた作品で、インパクトのあるキャッチコピーとイラストのバランスがよくまとまった力作です。同じく準特選の飯嶋海さんの「口蹄疫」はごくシンプルなレイアウトですが、ストレートに口蹄疫被害に問題を投げかけたところを評価しました。奨励賞の伊東珠貴さんの「命の音」はほのぼのとしたタッチの牛のイラストに好感がもてる作品。どこかにうまくタイトルかコピーをレイアウトすれば、もっと上位に上る作品です。安藤萌さんの「Festival」は独特のタッチと手慣れた作業でまとまりのあるポスターです。タイトルの処理が少し惜しい気がします。下村美波さんの「言葉で人は、」と吉原小百合さんの「あなたは注意できますか?」は現代の若者の問題に真剣に取り組んだ力作で、あと少しの文字のレイアウトの工夫があればもっと良くなると思われまふ。努力賞の甲斐千春さんの「空も泳ぐ金魚」はテーマとタッチがよく一致したイラストレーションで不思議な世界に惹きつけられます。

最後になりましたが、延岡市美術展覧会実行委員の皆様のご尽力に敬意を表し、またご出品の皆様の益々のご精進とご活躍に期待いたします。

【書道部門】

日展会友・日本書芸院評議員 岩田 海道

一昨年に続き二度目の審査をさせていただきました。

応募総数が72点の出品があり、昨年よりも増加したとの事大変うれしく思いました。ここ数年全国展及び地方展に於いても減少の傾向にある中、本展の増加は歴史の深さとこの美術展に携わっている関

係者の努力の賜物と深く感謝申し上げます。鑑別・審査は慎重に慎重を期して、ひと通り作品を観せて頂きました。全体として出品作品は、稚拙な作品がなく、ある程度のレベルの高い作品が多く有りました。その中から生きた線にて、より生命感のあふれた作品を入賞・入選と決定させて頂きました。惜しくも選外となった方もどうか来年に向け、学書に努めて欲しいものです。

特選 村田香風さんの作品は

単々とした行の流れに、見せずして見せる技をもあり余白の美しい快作です。

第60回記念特別賞 山浦柏秀さんの作品は

錬度の高い手慣れた作、気脈の一貫も見事です。

準特選 原田桑峰さんの作品は

鋒先にも命が宿っている充実が作品から風が吹いて来ている秀作です。

準特選 植野竹山さんの作品は

私樣的な暖かみのある中にも品格の高い作品です。

【写真部門】

写真家 橋口 譲二

前年度に比較して応募作品全体のレベルがUPしていることに驚きました。

そして技術の向上以上にカメラを向ける先が広がった気がします。そのことは今まで見過ごして来ていたものに、足や目が止まり始めたことであり、皆さん一人一人の価値観が多様化したことにも繋がるかと思います。そして被写体に関係なく写し込まれているものが生き生きしている写真が増えているのも印象的でした。

ただ前回ほどではないにしろレンズの使い方が気になる作品も少なくなかった気がしました。ズームレンズは便利な道具ですが暮らしや日常を撮る場合には時として対象が持つ時間軸を奪い空気や気配を失うことに繋がり易いです。

いい意味で余分なものが画面の隅々にもう少し写り込んでいた方が写真に広がり生まれ、より深く自然に主体が生きてくると思います。

スナップ写真は余分なものや予期しないものが写るから面白いのです。

上記のことと矛盾するかも知れませんが、風景や自然を撮った作品の多くに、まるで一つの約束ごとで有るかのように画面の隅に決まって人が映っていることが気になりました。人の入れ込みかたに不自然なものを感じました。もっと自分自身が引かれた空気、気配に素直に対峙することを僕は勧めます。と同時にもっと光を選ぶことも勧めます。出会ったその時その瞬間も大切ですが、自分が引かれた対象（風景、光景）を様々な時間の流れの中で見てみたらどうでしょうか。きっと時間によっては驚くほど表情が異なって見えるかと思います。

全体にレベルが上がったとはいえ、もっともっと粘っこく対象と向かい合うことを勧めます。そして応募作品以外の写真のベタ焼きを何度も見直して見ることも勧めます。以外にボツにした写真の中にいいものが眠っているかも知れませんが、そして何度も言葉にしましたが、多くの人が美しいと思う被写体以外に形にもとられることなく、皆さんの「美しい」時間や表情を探す努力をしてみてください。

◆第60回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	67 人 (72)	16 人 (15)	78 点 (79)	5 点 (8)	83 点 (87)	2 人 (2)	69 人 (74)	85 点 (89)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	32 人 (38)	3 人 (6)	35 点 (44)	0 点 (0)	35 点 (44)	1 人 (1)	33 人 (39)	36 点 (45)
彫刻・工芸	29 人 (39)	11 人 (10)	38 点 (47)	2 点 (2)	40 点 (49)	1 人 (2)	30 人 (41)	41 点 (51)
グラフィックデザ イン	73 人 (24)	0 人 (1)	3 点 (5)	70 点 (20)	73 点 (25)	0 人 (0)	73 人 (24)	73 点 (25)
書 道	71 人 (63)	1 人 (1)	72 点 (63)	0 点 (1)	72 点 (64)	7 人 (5)	78 人 (68)	79 点 (69)
写 真	127 人 (120)	58 人 (58)	183 点 (177)	2 点 (1)	185 点 (178)	3 人 (3)	130 人 (123)	188 点 (181)
合 計	399 人 (356)	89 人 (91)	409 点 (415)	79 点 (32)	488 点 (447)	14 人 (13)	413 人 (369)	502 点 (460)

※〈招待作家〉…全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

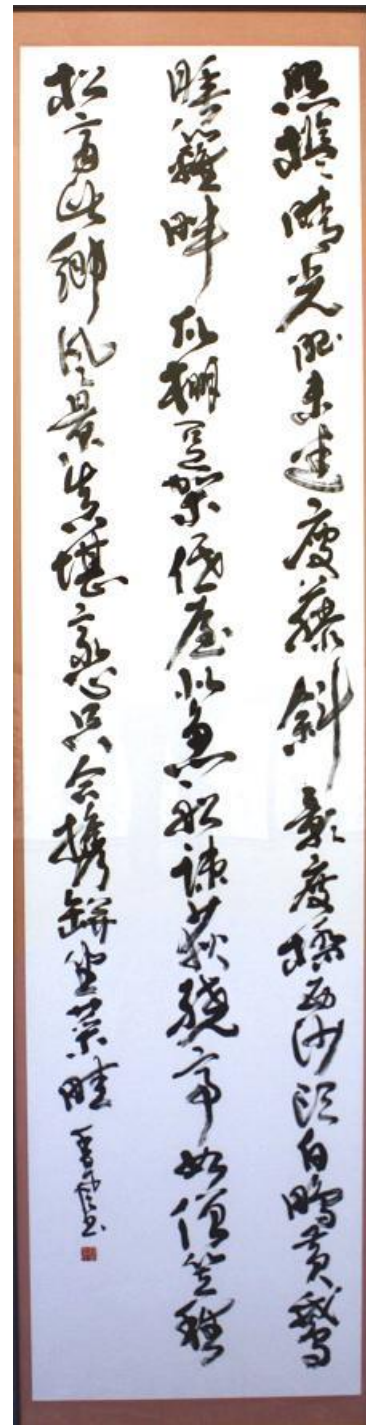
※〈無鑑査〉…「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品



グラフィックデザイン部門 特選
「昔はお外で遊べたの？」



彫刻・工芸部門 特選
「金星へのメッセージ」
(金星探査機あかつきとイカロスとスーパーローテーション)



書道部門 特選
「水 邨」